

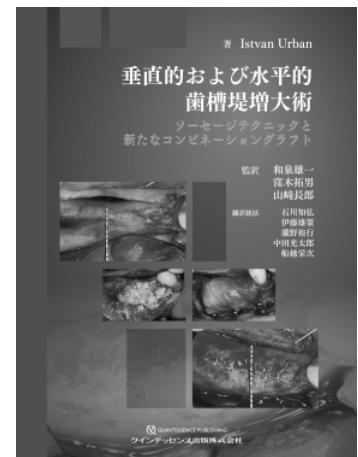
Istvan Urban の 垂直的および水平的歯槽堤増大術のススメ

瀧野 裕行

医療法人 裕和会 タキノ歯科医院



近年、歯科医療の進歩や患者の意識の向上により歯の寿命は年々延びている。それに伴い天然歯とインプラントが混在しているケースを日常臨床の中でも多く目にする。このように天然歯列の中にインプラント治療を行なわなければならない場合、歯牙とインプラントの間に歯肉の連続性、骨の連続性、歯牙の連続性を付与することが大切である。また、歯を喪失すると歯槽骨と軟組織は欠落し、インプラントを必要とする大部分の症例では硬軟組織の増多やバイオタイプの改善が必要となる。しかし、その結果、煩雑な手技、無謀な治療計画によるトラブルが見受けられることも少なくない。審美的、機能的に長期安定性を獲得する為には術前の綿密な治療計画を立案し、生体材料や術式を最良のものを選択していく必要がある。インプラント治療の成功には、多くのマテリアルから個々のケースにあった適正なものを選択するのは勿論のことだが、的確な診断に基づき、数多くの治療戦略の中から患者の失われた機能、審美的回復およびその治療結果の永続性が最も獲得出来るものを選択し、その治療戦略を確実に遂行することが重要となる。今回、Istvan Urban 著書の「垂直的および水平的歯槽堤増大術」についてソーセージテクニックやコンビネーショングラフトを検証したい。



略 歴

1991年 朝日大学歯学部 卒業
1995年 タキノ歯科医院 開設
2006年 医療法人社団 裕和会
タキノ歯科医院・ペリオ・インプラントセンター開設

現在の役職及び所属学会 等

- ・朝日大学歯学部歯周病学講座 非常勤講師
- ・東京歯科大学歯周病学講座 客員講師
- ・日本臨床歯周病学会 認定医
- ・JIADS 理事長
- ・日本口腔インプラント学会会員
- ・AAP 会員
- ・OJ 副会長
- ・NGSC 副会長

memo